

令和4年度 いのちの授業 事例集（幼稚園こども園）【言葉】

掲載数

2

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 県西	年中	言葉	当番活動	<p>冬野菜のブロッコリーとキャベツを年中組がJAまで買いに行った。育て方や苗の違いを聞き、他学年に苗を渡す時に自分たちが得た知識を上手に伝える姿が見られた。自分たちで購入した苗を育てるために、水やりを当番制にし、責任をもって育てられるようにしていった。</p> <p>最初は、当番の仲間の意識がなく担任がその都度、名前を呼んで当番であることを伝えていたが、当番活動に慣れてくると仲間を誘い合って活動をする姿があった。当番をする時は、葉に水をかけないように丁寧に水をあげ、友だち同士、「こっちにもあげよう。」「ここに水あげて。」と伝え合う姿も見られた。時に水やりを忘れてしまうと、「お当番するの忘れちゃった。明日絶対にやるね。」と言ったり、降園後、保護者に「見て！（当番してるから）大きくなったよ。」と成長の様子を伝える姿が見られた。部屋では次の当番の為に、矢印を移動させ次の当番を知らせる姿も見られた。12月になり野菜の収穫をした時は、「ブロッコリーの匂いがする。」「小さいプチプチがある。」「キャベツ大きい！」「重たいね。」など、気づいたことを伝え合い、収穫できた喜びを感じていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当番中は子ども達に任せ、教師は見守る姿勢をとった。 ・以前は戸外遊びの時に声を掛けながら水やりをしていたが、当番活動への責任感を育てたり、当番活動の経験をしたりするために水やりを当番活動に位置付けた。 ・当番中に気づいたことなどは、帰りの会などで発表する場を設け、みんなが共通して把握できるようにしていった。
2 県西	年長	言葉	カマキリの餌	<p>虫好きのA児と一緒に園庭に虫探しに行ったB児。A児は虫探しをすることが多く、どこに虫がいるのかよく知っていた。最初にカマキリを見つけてつかまえると、A児は餌になるバッタを探し始めた。B児がバッタを見つけ、A児がとってあげた。その後、A児はその日餌になるバッタが見つからなかったため、B児が見つけたバッタを餌にしたいことを伝えたが、B児は「カマキリに食べられてしまうのはかわいそう。」とバッタの立場にたっていた。しかし、カマキリを2人で一緒につかまえたことも嬉しくて、どうしようか悩んでいた。A児がカマキリも餌がないと死んでしまうことを伝えると、カマキリの気持ちにもなり、悩んだがバッタを餌にすることにした。両方の命の大切さを考えた場面だった。</p>	